

あいコープ共生会 2016年度活動報告

【2016年度活動方針1 あいコープと共生会会員の双方で世代交代が進む中、食を軸として共に生きていく仲間である生産者とあいコープとの絆を、次世代に継承する活動をI耕塾を中心に取り組みます。あいコープみやぎ2020年ビジョンの推進に協力します。】について

6月9日あいコープみやぎ総代会で2020年ビジョンが可決承認されました。幹事会のみならず多くの会員が組合員と共にワークショップに参加し、共生会としてこのビジョンづくりに参画してきました。今後、あいコープみやぎと共に2020年ビジョンの実現に向けて活動していきます。6月27日あいコープふくしまの総代会に郷右近会長が参加しました。

8月5～6日の二日間にわたり、幹事6名i耕塾4名事務局1名計11名の参加で幹事会・i耕塾ふくしま研修ツアーを行いました。その初日にあいコープふくしま理事会との交流を行いました。互いの自己紹介のあと、あいコープふくしまが「時短・増量・コラボ」をテーマにランチ会・生産者を囲む会からあいコープ祭りへと展開している組合員活動の成果について伺いました。そして調理室で実際にランチ会を体験させてもらいました。ふくしまの理事の皆さんと一緒に「時短・増量・コラボ」メニューを調理して試食しながら交流を深めました。

その後、ふくしまの提携生産者である福島GAP岡部洋一氏（須賀川市）の圃場見学及び共生会会員の大木代吉本店（矢吹町）を訪問しました。大木雄太社長との交流では、被災を乗り越えながら事業継承し、目指すべき事業を思い描きながら様々なチャレンジを続けている社長の経験に多くを学ぶことができました。二日目はタンポポ村（南相馬市）を訪問、牛渡美知夫社長から震災以降の事業再建について学びました。

9月9日にあいコープみやぎ理事会と幹事会との懇談会を日の出町センターで開催しました。どちらも世代交代が進み理事と幹事合わせて25名中12名が新メンバーです。夏の県内産地交流を振り返りながら今後の交流の進め方を話しあいました。

あいコープみやぎ職員研修に大郷みどり会と七郷みつば会が協力しました。7月23日に七郷みつば会で職員15名が除草やトマトの誘引作業を体験しました。8月20日には大郷みどり会で職員26名がネギの収穫作業などを体験しました。この研修会で職員の皆さんに、市販されている慣行栽培の野菜や米と、優ぶらんどに挑戦し産直供給している野菜や米とはまるで別物であることを伝えることが出来ました。

3月15日に開催された第16回庄内協同ファーム生産者集會に西塚忠樹幹事が参加しました。

【2016年度活動方針2 生協組合員との交流を促進します。交流の場では、供給商品についての情報だけではなく、原料事情など生産者が直面している問題や食の背景についても生協組合員に伝え共に考えます。特に組合員の関心が高い「市販品との違い」や「農薬、添加物」について繰り返し伝える努力をします。】について

あいコープみやぎ「みんなであいごはん」「秋のフォーラム」、あいコープふくしま「ランチ会」に会員が参加しました。(別紙参照)みやぎ、ふくしまそれぞれで放牧酪農を実践している「ながめやま牧場」の見学会が企画されました。みやぎの地区委員会は夏に迫、大郷、七郷、秋保の農産生産者を訪問し農作業体験交流会をおこないました。「秋のフォーラム」では交流会初体験の若手農産生産者が各地区の企画に参加し、農業に取り組む思いを自分の言葉で組合員に伝えました。

7月29～31日に行われたあいコープふくしまの庄内浜ツアーに庄内協同ファームと月山パイロットファームが、受け入れ団体として協力しました。組合員27名と子どもたち28名が生産者と一緒に楽しい夏休みを過ごしました。

あいコープみやぎあい農委員会の組合員農業体験企画「田んぼに行こう」に大郷みどり会が今年も協力しました。田植え、草取り、生き物調べ、稲刈りにのべ233名の組合員・家族が参加しました。またあいコープみやぎ体験圃場(仙台市若林区荒浜)であい農委員会企画の「畑に行こう」に年間登録した組合員6家族24名が計7回の活動を行っています。この企画に七郷みつば会が協力しています。阿部寿一幹事も参加し組合員と一緒に農作業をおこないました。

あいコープみやぎの機関紙あいあいあいでは「生産者にあいに行こう」企画が展開されています。普段はなかなか交流できない遠隔地の生産者を訪問、あるいは宮城に招いて紹介していくものです。7月号にあいあいあいファームわ・は・わ田尻(宮城県大崎市田尻)、9月号にニッコー(神奈川)工場訪問、11月号に天童果実同志会(山形)の園地見学ツアーがとりあげられました。千葉産直サービス(千葉)は富田社長が来仙し、組合員との学習交流会を行いその様子が12月号の紙面に掲載されました。

これまでは会員ごとに発信してきた地域循環型社会づくりの取組みを、一枚のリーフレットにまとめて「見える化」しました。組合員に供給している商品の、その生産の背景をより深く伝えるツールとして活用していきます。

【2016年度活動方針3 10月30日Wa!わぁ祭り(仙台市卸商サンフェスタ)、12月4日あいコープまつり(郡山市ビッグパレット)に参加します。】について

あいコープみやぎのWa!わぁ祭り(10月30日)、あいコープふくしまのあいコープ祭り(12月4日)に出展参加・協賛品提供を行いました。Wa!わぁ祭りは、共生会から

大郷みどり会、まるご食品が祭り実行委員会に参加しあいコープみやぎの組合員と共に祭りの企画準備を担い、当日は51会員が出展し、出展者来場者合わせて約2000名で交流を深め、盛り上がりました。あいコープふくしまのあいコープ祭りには35会員が出展し、2121名の参加で盛況でした。

あいコープみやぎでは組合員拡大の新しい取り組みのひとつとして「イベント出展」に取り組んでいます。この活動の一環として仙台市一番町で開催されている「伊達美味マーケット」への出展が7月～12月まで計9回行われましたが、そのうち8回に鎌田醤油、趙さんの味、七郷みつば会、まるご食品、花兄園、パン工房わ・は・わ、天童果実同志会が共同出展して協力し、獲得情報66件、加入26件の成果を上げました。

【2016年度活動方針4 あいコープ商品部との協働を強め、商品開発提案、品質管理レベルの向上、販促企画提案に取り組めます。「もう一品の利用増」＝生協の供給高アップを目指して、「生協の商品で暮らすには」を組合員と共にもう一度考えます。お申し出については、商品部を通じて組合員が納得できるレベルの回答をするとともにお申し出の真因を解明することを通じて安全安心のレベルを上げていきます。】について

15年度からタンポポ村とウインナー開発プロジェクトの協同で開発が取り組まれてきた「もぐもぐミニウインナー」が5月に新発売されました。開発に関わった組合員・子ども達は延べ1000名にのぼり、デビュー後の受注点数は836点（1回当たり平均値）と好調な利用状況です。

今年度はさらに、鎌田醤油が商品部と協同して、国産丸大豆を使った「つゆ」の再開発に取り組む7月「こだわりの麺つゆ」10月「こだわりの万能つゆ」が新発売されました。「麺つゆ」は従来品と同様の実績をキープしつつ新規ユーザー層を獲得し、「万能つゆ」は従来比200%も伸長しています。また、あいコープみやぎの食パン開発プロジェクトにパン工房わ・は・わが参加し、新しいPB食パンの開発を進めてきました。今年4月にいよいよ新発売になる予定です。

いずれの開発にも「コンセプト作り」「製造現場見学」「試食」「仕様決定」「ネーミング公募」「包材デザイン選定」など様々なプロセスに組合員の参加を図りながら進められました。「もぐもぐミニウインナー」と「こだわりの麺つゆ」は今年度の新あいぶらんど商品に選ばれました。

今年度は共生会会員から提案された360の新商品採用・商品改変が行われました。

田尻エコ畜産協議会ではアニマルウエルフェア・資源循環型畜産を目指すのら牛プロジェクトの再スタートに向けた協議がすすめられました。また、6月にあいちゃん牧場で肥育した豚肉が「こめ豚セット」として供給開始されました。

品群別には産直青果、水産品、惣菜、卵、牛乳、調味料が伸長傾向となっています。

品質管理レベル向上に向けた工場点検を全12か所で実施し、これに会員も協力しました。回を重ねるごとに指摘事項の改善が見られています。今後、食品表示法施行に伴う表示改定、HACCP義務化に向けた危害分析・管理体制の構築を進めていく必要があります。

あいコープみやぎの栽培基準達成に向けて農法研究会は研修、視察、分析活動を10回行いました。七郷（3月）と天童（8月）の土壌検査を行い、9月15日に大郷町で土壌学習会を開催しました。1月12日には地場生産者研修会で葛谷栄一氏講演会を行い生産団体の地域での在り方、理念、社会状況の見通し等を学びました。

【葛谷氏は農的社會デザイン研究所代表。同研究所は地域レベルでF3E2C（Food（食料）、Energy（エネルギー）、Environment（環境）、Education（教育）、Care（福祉介護・医療）、Culture（文化））を極力自給していくことによって、これまでの工業的社會を転換し、農的社會の創造を目指す研究所です。農、食、環境を中心に、現場での取組みをベースに講演・講義、調査・研究、情報発信しています。】

【2016年度活動方針5 3月5日に開かれるGMOフリーゾーン運動全国交流集会 in みやぎに参加します。GMOフリーゾーン運動を推進します。】について

3月5～6日GMOフリーゾーン運動全国交流集会 in みやぎが開催され、240名が参加しました。実行委員会にはあいコープみやぎと共に鎌田醤油・JA加美よつばの両会員が参加し、一年にわたる準備活動に携わりました。当日は鎌田醤油、迫ナチュラルファーム自然村、大郷みどり会、七郷みつば会、JA加美よつばがロビーでブース出展を行いました。またGMOフリーゾーン宣言の看板を、七郷クローバーズファーム、JA加美よつば、迫ナチュラルファーム、大郷グリーンファーマーズ、高橋徳治商店、グリーンネットワークの6会員が設置しました。

「すべての遺伝子組み換え食品に表示を求める署名」運動に協力しました。あいコープみやぎは1937筆を集約しました。全国では136,595筆が集まり、1月27日に消費者庁へ提出しました。

【2016年度活動方針6 原発再稼働に反対します。とくに30km圏内、60kmでは仙台市も被害をまぬがれない女川原発再稼働反対の活動に取り組みます。水源地で進められようとしている国の放射性指定廃棄物最終処分場建設計画に反対します。宮城県内では栗原市・加美町・大和町三ヶ所が候補地にあげられましたがいずれも田畑、飲み水の水源汚染に関わる地域であり、昨年末の宮城県主催の市町村長会議で三自治体とも候補地返上を宣

言しています。三候補地の反対運動に連帯します。六ヶ所核燃再処理工場の本格稼働に反対します。生産者自らが自分たちの暮らしや生産における省エネルギー、再生可能エネルギー導入の取り組みを共生会ニュースなどを通して学び合い、生協組合員へも発信していきます。あいコープみやぎはエネルギーの地産地消を目指し、電力自由化を受けて再生可能エネルギーを電源とした「電気の共同購入」を模索しています。この取り組みに会員の積極的な参加を呼び掛けます。】について

新潟県知事選、鹿児島県知事選で原発再稼働に反対・慎重姿勢の候補が当選し、原発再稼働反対の世論を示しました。しかし、政府や電力会社は再稼働への動きを続けています。巨額の費用を投じて失敗に終わった高速増殖炉「もんじゅ」の廃炉を決める一方で、政府は新たな高速増殖炉の計画を打ち上げて、死に体の「核燃料サイクル」を維持しようとしています。私たちは女川原発をはじめとする原発再稼働、六ヶ所核燃再処理工場本格稼働に反対します。

水源地に設置されようとした放射性指定廃棄物最終処分場は、三候補地のねばり強い反対運動によって、現地調査に踏み込めないまま再び年を越すことになりました。

宮城県は、東京電力福島第一原発事故によって放射能汚染された8000Bq/kg以下の廃棄物（稲藁や牧草など）を一般ゴミに混ぜて焼却処理しようとしています。放射能を環境中に拡散させる焼却処理は市民に新たな被ばくを強いるもので間違っています。あいコープは県内の諸団体と共に宮城県への申し入れ行動や「署名」に取り組んでいます。共生会でも会員に署名を呼びかけ、取り組みが進んでいます。

1月29日仙台市で開催された「原発のない東北の復興を考える～市民による女川原発の再稼働を問うシンポジウム（脱原発をめざす宮城県議の会主催）」に幹事会から阿部寿一副会長、会員からは秋保ゆうきの会のメンバーが、多くのあいコープみやぎ組合員と共に参加しました。

【2016年度活動方針7 東日本大震災と東京電力福島第一原発事故と向き合い、生産者として被災地復興で必要とされる事業の存在意義を明確にします。東日本大震災と福島第一原発事故から5年目を迎えようとしています。被災地や原発避難者に寄り添える支援活動を物心両面から模索します。】について

7月29日～30日に行われたあいコープふくしまの庄名浜ツアーに庄内協同ファーム、月山パイロットファームが協力し、ふくしまの組合員と子どもたちと一緒に楽しいツアーを盛り上げました。

石巻市渡波で活動するNPO法人お茶っこケアが開催したお茶っこ夏祭り（8月28日）に高橋徳治商店と丹野商店が食材を提供して協力しました。

また、11月5、6日の二日間パルシステム神奈川ゆめコープの組合員による被災地スタディツアーが来県し、南三陸町と仙台市若林区を回りました。若林区では、津波に被災した七郷みつば会のトマトハウスを訪問し、七郷クローバーズファームの細谷代表が震災当時やその後の復興の道のりについて説明しました。震災と原発事故は現在進行形の課題としてあることを、神奈川の生協組合員に発信することができました。

【2016年度活動方針8 石けん運動に取り組みます。加工場・生産機械・農機具・家庭に至るまで食品への混入、排水から河川、海への放流にまで生産者、帳合い問屋が自らが水や資源、身体的环境を考えた生産や生活を目指します。】について

6月9日、幹事会においてあいコープみやぎ高野副理事長を講師として石けん学習会を行いました。汚れを落とす仕組みから石けんを選ぶことの意味まで幅広く学びました。冷凍食品メーカーの、ニッコーでは工場内の洗浄を長年石けんで行っていることが、みやぎ機関紙あいあいあい9月号で組合員に紹介されました。会員同士での情報交換を進め、製造現場や生産者自身の生活の中に石けんを取り入れていく取組みを続けます。

【2016年度活動方針9 TPP合意によって、政治的・経済的・社会的情勢は「食の自給と安全」や「地場生産地場消費」がますます困難になることが予想されます。その中で安全安心を貫く事業の継続に必要な会員各々の「構想・計画」を共に模索し知恵を出し合い深める場をつくります。】について

11月18～20日に宮城県で開催されたBMW技術全国交流集会の実行委員会に宮城BMW技術協会参加会員が参画し、準備・運営を担いました。交流集会に全国から参加した204名共に、東日本大震災被災地での開催にふさわしい問題意識を深めることができました。

農産の分野では優ぶらんど基準達成への取組みが農法研究会を中心に進められています。2017年1月12日に産地研修会を開催し、農的デザイン研究所蔦谷栄一氏から「持続可能な農業を目指して」と題した基調講演を受け、研究会参加産地から2016年度の実験結果について報告をおこないました。

2月24日、あいコープみやぎ組合員にも参加を呼び掛けて、水産資源問題の学習講演会を生田與克氏を講師として開催しました。

アメリカ・トランプ新政権はTPP離脱を宣言しましたが、同時に二国間の貿易交渉によってアメリカの利益を最大化する姿勢を鮮明にしています。引き続き食の自給と安全を追

求するあいコープと共に活動を進めていきます。

その他

共生会の立ち上げから、最初は事務局として後に幹事として長年にわたり共生会活動を支えていただいた故今福節男さん（グリーンネットワーク）のご家族から、あいあいファームわ・は・わ田尻に音響と映写設備が寄贈されました。設備を設置した集会室は「今福ルーム」と命名され、みんなの輪利用者やあいコープみやぎ組合員の活動の場として活用されています。